

善福寺川周辺の樹木と野草

～～野草シリーズ～～

林 静 (S45 経)

野草シリーズの第3回第2弾は、「可哀そうな名前の付いた草花」と題して、よく見かける花の中で、ちょっと変わった名前の野草をご紹介します。

(写真1)

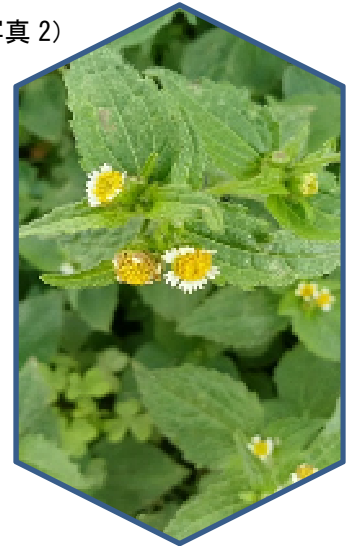


皆さん、左の写真を見てください。アサガオと同じような蔓に、花の長さ2cm、直径5mmほどの小さな花をたくさん咲かせています。白い花の中が赤紫色のとても清楚な花ですね。この可憐な花には、な・な・なんと「ヘクソカズラ (屁糞カズラ)」という名前がついているのです。屁・糞は字の通りの意味で、カズラは「つる」です。私は匂ったことがないのですが、葉や蔓をもんでみると、とても臭いにおいがするそうです。古代から日本に有ったらしく、「万葉集」にも出て来るとのことです。8月～9月頃、公園のフェンスなどに絡まっているのが見られます。

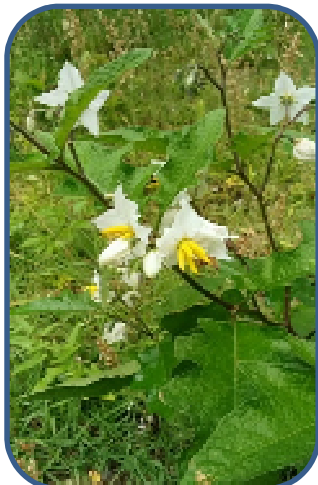
右の花もちょっと地味ですが、可憐な花ですね。大きさは、全体の高さ3～40cm、花の直径は、5mm位です。7月頃から、年を越えるまでいつでもどこでも見ることができます。

この花の名前は、「ハキダメギク (掃溜菊)」です。日本で最初に発見されたところが、世田谷のゴミ捨て場だったので、この名がついたそうです。何と、命名者は、かの有名な牧野富太郎博士とのこと。ちょっとかわいそうすぎますね。

(写真2)



(写真3)

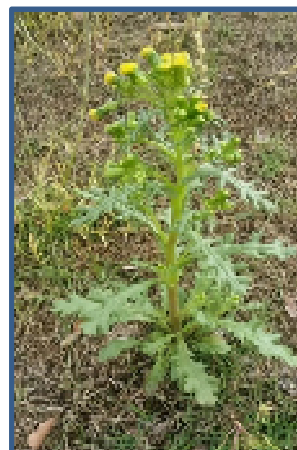


この花は、「ワルナスビ (悪茄)」です。背丈70cm程で、直径2cm余りの薄紫色の花弁に黄色いおしべが目立つ、とてもきれいな花を咲かせます。ついつい取って帰りたくなるほど綺麗です。ところが、この草は、繁殖力が旺盛で、

鋭いとげが多数あり、けっこう厄介な草なのでこの名がついたようです。
この名を付けたのも、あの偉大なる植物学者の牧野富太郎博士とのことです。
今、善福寺川周辺でやたらと繁殖しています。

(写真4)

右の(写真4)は、「ノボロギク(野檻樓菊)」です。
どこでも見られます。花が開かないまま綿毛になってしまうからでしょうか。



この他にも、可哀そうな名前の付いた草花は
たくさんあります。ママコノシリヌグイ(玉川上水
で見ました)、ブタクサ、ブタナ(10月に紹介済)、
オオイヌノフグリ、オッタチカタバミ、etc.

人間にこんな名前を付けられても、毎年毎年可愛い花を咲かせてくれる
草花たちに、「ありがとう」って、感謝の言葉を投げかけてやりたいと思います。

.....

<追記>

第4回の冒頭で紹介しました「ナガミヒナゲシ」についてですが、読者の一人から、
庭では栽培しないよう、忠告をいただきました。

ネットで調べてみると、『オオキンケイギクのような「特定外来植物」にはなっていないが、根と葉から、周囲の植物の生育を強く阻害する成分を含んだ物質を生み出し、
在来植物を圧迫駆逐し、生態系を破壊するそうです。「特定外来植物」をも上回る影響
があることから、駆逐の対象にしている自治体も増えている。』とのことでした。
とても繁殖力の強いやっかいな植物とのことでした。

今回紹介しました「ヒメジョオン」「ハルジオン」なども、要注意外来植物とのこと
です。このことを頭に置きながら眺めてください!

.....

(つづく)